京都企業トップが語る

日本写真印刷　鈴木　順也社長

印刷ベースに新商品

―姫路工場のタッチパネル新ラインが稼働しました。

「静電容量式のタッチパネル。新しい生産方式を採用し、8月から立ち上げ、ようやく生産もそこそこになってきた。競争力のあるデバイスだ」

―印刷技術もどんどん変化しています。

「水と空気以外は何でも印刷しますよ、とやってきた。紙がプラスチックになり、金属やガラスへとなっている。対象物に付加価値を付ける技術だ。色素増感型太陽電池（DSC）のように発電するような材料、回路パターンの形成など可能性は広がっている」

―DSC新商品にも期待がかかります。

「全社的に戦略資産の〝組み替え〟を進めているところだ。これまでタッチパネルやモバイル機器への加飾など情報化分野にどっぷりつかっていた。この分野の大幅な回復は期待しにくい。これからは医療などライフスタイルサポートや、エネルギーなど循環型社会の分野に打って出る。3年後にはポートフォリオががらっと変わるだろう」

―開発やマーケティングがカギを握ります。

「R&Dを強化している。スピードが大事だ。自前主義でなく、オープンイノベーションを志して進めている。新技術のネタを仕入れてくることも重要。若手技術者を欧米の先進地に送り、印刷やその周辺技術の探求に取り組んでいる」

ワコール　安原　弘展社長

英国社と外需開拓

―女性の体形に関する蓄積した研究データをもとに多種多様な下着を生みだし、特徴や機能を端的に表すネーミングで販売を促進してきました。

「商品の出し方や伝え方が同じでは顧客が鮮度を感じられなくなり、次のキーワードが必要になるが、女性の体形変化に応じた商品をつくっていくというモノづくりの基本姿勢は変わらない」

―国内ではボリュームゾーンへの商品投入や異業種との連携で需要を掘り起こしています。

「デフレなどの懸念材料に加え、消費増税も個人消費に大きく影響する。市場の先行きは不透明感が強い。まだ手を出していない価格帯や手薄な市場で需要を開拓する。自社単独では参入しにくい市場で販路獲得が見込めれば他社とも連携していきたい」

―欧米に販路を持つ英国のエヴィデンがグループ入りし、海外での事業展開が加速しそうです。

「現地での事業構築に向け当社のフランスや米国の拠点も含めた効率的な体制の検討が必要だ。先方と情報交換しながらグループとして成長するため展開を模索する」

―生産体制の再構築はどう進めますか。

「ベトナムやインドネシアでの生産増強やほかの国での生産も検討している。10年先を見据えたグループ全体の最適な生産活動を検討するプロジェクトを、2013年度から始動したい」

オムロン　山田　義仁社長

新興国市場開拓に力

―中国をはじめ、新興国の景気減速が目立ちはじめました。

「大きな流れとして主力の制御機器事業もヘルスケア事業も、新興国にビジネスチャンスがあることに変わりなく、市場開拓を推進する方向性に変更はない。新興国の設備投資や販売網の整備について、市場の変化を見極めながら、手を緩めずに取り組む方針だ」

―社長就任からもうすぐ1年半ですね。

「震災をはじめ、昨年は外部環境の変化が大きかった。就任以降、変化対応力の重要性を常に意識している。変化のスピードが速く、振幅も大きい今、現場と顧客の視点から、いち早く予兆を捉える必要がある。組織が結束して変化に対応し、さらにスピードを上げていきたい」

―京都企業には新しい事に挑戦し、新しい価値を生み出していくという風土があります。オムロンも新規事業に力を入れていますね。

「特に力を入れているのが環境関連事業。世界の製造業では限られたエネルギーで高いQCD（品質、コスト、納期）の実現が求められている。このノウハウや仕組みを確立できれば、日本の製造業が世界をリードできる。わが社ではQCDにE（エネルギー）とS（セーフティー）を加えて『QCDES』と呼び、ここに大きなビジネスチャンスがあると考えている。センシング&コントロール技術を核に、強みを生かして貢献していきたい」

不二電機　小西　正社長

一般産業用も拡大中

―事業の源流はどこにあるのですか。

「創業者には炭坑の作業に従事した経験があり、炭坑のリフトに使われていた簡易なスイッチからヒントを得たのが、当社のスイッチ事業の原点になった。その後、創業者は電鉄関連の会社を経て独立した」

―事業が大きくなる転換点となったのは。

「創業後は重電メーカーの下請けとなったが、1975（昭50）年ごろから下請けでは成長するのが限界となった。そこで下請け製品を一切断り、すべて自社ブランドで事業をする経営に転じた。当社の主力製品は電力設備や一般産業機器の制御用開閉機器、接続機器、表示灯・表示器、電子応用機器だが、一貫してスイッチの接触技術を徹底して磨いてきた」

―特に競争力が強く得意な分野はどこですか。

「電力業界の制御盤や配電盤にはほとんど当社の製品が使われ、この分野ではシェアが50％を超える。電力業界と一緒になって、電気の接触不良をなくす技術開発に努めてきた。当社の全製品を組み合わせたシステム提案も強みだ。近年は電力関連だけに依存せず、電車や太陽光発電向けのスイッチなど一般産業用の需要も伸ばしている」

―京都企業の強みは。

「京都の町屋は間口は狭いが奥行きはある。京都の産業界も町屋のように、一つの事業を徹底的に深掘りして大きく成長している企業が多い」

三洋化成工業　安藤　孝夫社長

アジア需要に応える

―高機能な製品で自動車や生活・健康などの分野を開拓しています。

「自動車用の潤滑油添加剤は省エネや省燃費のニーズに合致し、ギアや無段変速機（CVT）に加えエンジンオイルにも使われている。紙おむつ向けの高吸水性樹脂（SAP）で吸水効率を高めた新しい品種は、日本のほか需要の高い中国でも採用され始めている」

―SAPの需要増を受け、中国で製造設備を大幅に増強しました。

「今後も生産増強を計画している。中国の紙おむつの伸び率は鈍化しているものの需要は依然高く、他国でもアジアの新興国を中心に伸びている。生産を分散するために、東南アジア地域でも増産を検討している」

―中長期を見据えた新たな技術開発にも力を入れています。

「コピー機やプリンター用の省エネに向けて、重合トナー中間体の製造工程や製造方法を研究している。パイロットプラントを鹿島工場（茨城県神栖市）に建設し、性能を確認中だ」

―グローバル化に向けた取り組みは。

「人材育成の一環で日本の30歳前後の社員を米国で研修させる教育制度を11年度から始めた。海外拠点では内部統制を強化し、現地スタッフに権限を委譲していく。また海外のテクニカルサービスラボを活用し現地のニーズに合わせた技術改良が可能な体制を整える」

大日本スクリーン製造　橋本　正博社長

先読みすること大事

―半導体製造装置の需要が停滞しています。

「だが半年先は予測できない。次に来るアプリケーションが何であるかを先読みすることが重要だろう。投資判断のスピードが速い業界だけに、顧客要求に迅速に対応していかねばならない。一方で洗浄領域のトップメーカーとして微細化プロセス、ウエハーの大径化への対応製品の開発は着実に進めている」

―印刷機は印刷用刷版描画装置（CTP）が新興国で好調です。

「安定供給できる大手が弊社1社になったことも要因。昨年増床した中国工場を活用し、ミドルエンド向けを拡大する。一方、プリントオンデマンド（POD）はラベル向けなど新領域にも参入する。ソリューション提案も重視し、東京・門前仲町のショールームからアジア市場に提案する」

―ポスト液晶の探索も急務です。

「液晶向けは若干回復してきた。独自のノズルプリンティング技術を用いた有機EL向け装置はパイロットラインの受注が目前だ。リチウムイオン電池の塗工装置などエネルギー分野への技術展開を積極的に進めたい」

―来年、創立70周年を迎えます。

「液晶を見るように、世の中の展開が早く、事業自身の寿命が短くなっている。これまで培った技術を元に、新しい事業領域や商品へと組み替えていくことが必要だ」

Horizon　www.horizon.co.jp

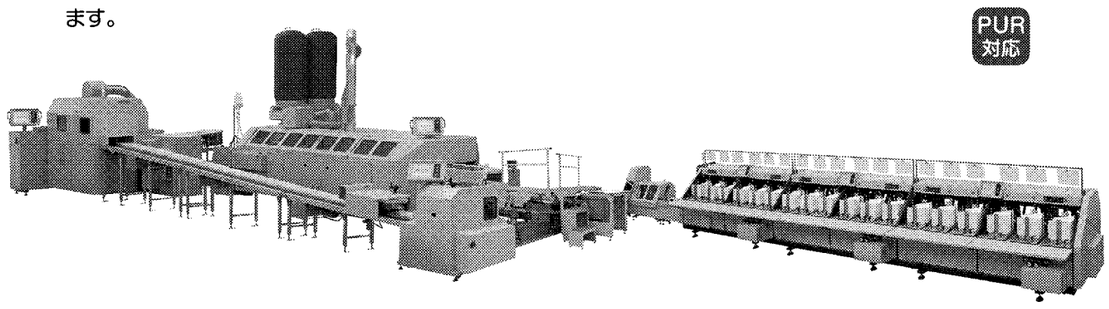
The World Loves Books.

「綴じられた本」から伝わる温かみや価値は、大切に継承したい世界共通の文化です。
デジタル技術を最大限に活かした製本機械を通じて、「本」の持つ良さを大切に守っていきます。

高速無線綴じライン17クランプタイプ
CABS6000（万力丁合機MG-600+無線綴機SB-17+三方断裁機HT-110）

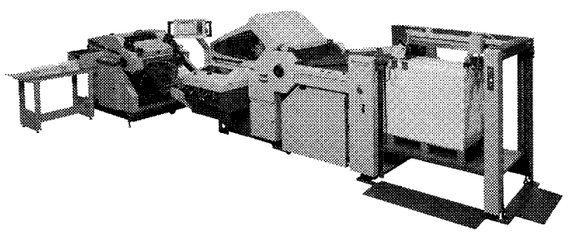
丁合から三方断裁までのインラインで時間6,000冊の高速生産を実現。高精度で素早いセット替えと、タッチパネルでの直感的でやさしいオペレーションにより、少量生産から多量生産まで幅広いニーズに対応します。

PUR対応



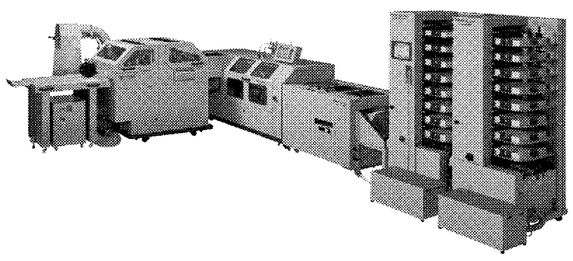
菊全判全自動紙折機+パイル式プレススタッカー
AFC-746F+PSX-56

タッチパネルからの直感的な操作でローラギャップを含む全てのセットが自動で行えます。オプションのパイル式プレススタッカーPSX-56の接続で更に作業性が向上します。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム
StitchLiner6000

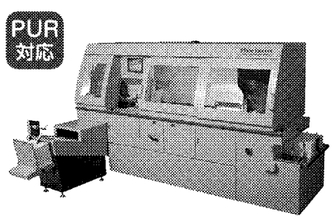
「ペラ丁合機・筋入れ折り装置・鞍掛け中綴じ機・三方断裁機のシステム化」という新発想のシステム。時間6,000冊の処理速度で、中・小ロットの仕事から大ロットの仕事まで、高速かつ効率的に処理できます。



自動無線綴機4クランプタイプ
BQ-470

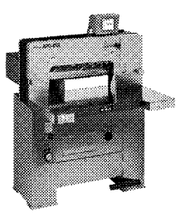
タッチパネルに製本内容を入力するだけで、全てのセットアップが自動で行われます。交換式メルトタンク機構で、用途に合わせてEVAとPURの切り替えが可能です。

PUR対応



全油圧断裁機
APC-61Ⅱ

幅61cm、厚さ10cmまで一度に断裁でき、プレッシャとともに、カッティングも油圧式で強力です。



開発・製造
太陽精機株式会社　www.taiyo-seiki.jp
［京都工場］〒601-8204　京都市南区久世東土川町242　TEL.075(921)9211(代)　FAX.075(934)8886
［びわこ工場］〒520-1501　滋賀県高島市新旭町旭字城ノ下1600　TEL.0740(25)4567(代)　FAX.0740(25)8008

国内販売
株式会社ホリゾン東テクノ
［本社］〒132-8562　東京都江戸川区松江5-10-9　TEL.03(3652)7631(代)　FAX.03(3652)8083
［東北営業所］〒984-0002　仙台市若林区卸町東1-7-31　TEL.022(782)2821(代)　FAX.022(782)3068
株式会社ホリゾン西コンサル
［本社］〒601-8206　京都市南区久世大薮町510　TEL.075(933)3060(代)　FAX.075(933)4025
［九州営業所］〒813-0034　福岡市東区多の津4-12-17　TEL.092(626)8111(代)　FAX.092(626)8112